

令和6年度熊取町一般会計歳入歳出決算概要について

1. 決算概要

(単位: 百万円)

	歳入	歳出	歳入歳出差引	翌年度に繰り越すべき財源	実質収支	経常収支比率	主要基金繰入
令和6年度	16,731	16,596	135	85	50	98.5%	544
令和5年度	17,919	17,617	302	242	60	98.0%	1,110
増減額	▲ 1,188	▲ 1,021	▲ 167	▲ 157	▲ 10	+0.5%	▲ 566

⇒ 経常収支比率は、前年度から0.5%上昇し、98.5%

⇒ 前年度に引き続く、多額の基金繰入(5.4億円)

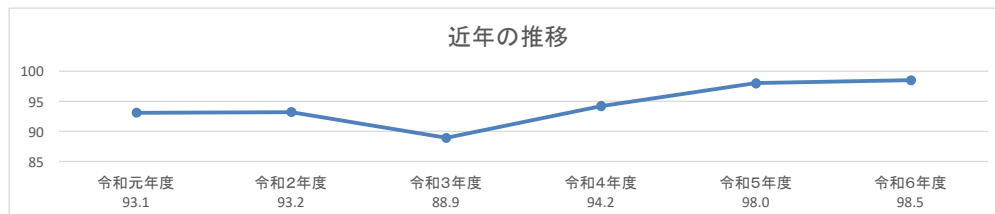
< R6 決算の特徴 >

令和6年度は、第4次行財政構造改革プラン「アクションプログラム」の見直しと並行した行財政運営となり、投資的事業をはじめとする臨時的経費や新規事業を抑制したこともあり、歳出総額は、10億2,100万円減少した。

しかしながら、義務的経費(人件費、扶助費、公債費)をはじめ経常的経費が大幅に増加し、前年度に引き続き財政調整基金やくまとりふるさと応援基金などから5億4,400万円の基金繰入を行うことで、黒字決算を維持した非常に厳しい決算となった。

経常収支比率は、前年度からさらに悪化した98.5%となったが、令和6年度決算では、くまとりふるさと応援基金の経常的経費への充当ウエイトが従来に比べて大きくなっており(行革による臨時的経費抑制に伴うもので、これにより表面上は経常収支比率が改善となる。)、この特殊要因がなければ、経常収支比率は99%を超える状況にある。

2. 経常収支比率について



○ 主な経常収支比率の増減要因

【良化要因】

⇒ 町民税(△138百万円 ※うち定額減税による減収が約180百万円)、固定資産税(+70百万円)

⇒ 地方特例交付金(+189百万円)、普通交付税(+361百万円)、地方消費税交付金(+49百万円)

【悪化要因】

⇒ 人件費: 人事院勧告の影響(職員給料、会計年度任用職員報酬等) (+100百万円)

: 会計年度任用職員の勤勉手当(+92百万円: 皆増)

: 退職手当 276百万円/99百万円(+177百万円) ※勲奨退職はのぞく

(内訳) 定年退職 232百万円/63百万円(+169百万円) … 【R6/R5】 11名/3名 (+8名)

自己都合退職 44百万円/36百万円(+8百万円) … 【R6/R5】 7名/4名 (+3名)

⇒ 扶助費の増加(+81百万円)

⇒ 物価高騰等に伴う経常的経費の増加

3. 主要基金の状況

①基金繰入額

(単位：百万円)

	財政調整基金	公共施設 整備基金	減債基金	ふるさと 応援基金	計
令和6年度基金繰入額	54	100	30	360	544

⇒6年度は、前年度の「文化ホール整備事業」や「地域振興券事業(R5→R6繰越)」のような大きな臨時事業はなかったが、多額(5.4億円)の基金繰入が必要になった。(＝経常経費に財源不足)

②基金現在高(現金ベース)

(単位：百万円)

	財政調整基金	公共施設 整備基金	減債基金	ふるさと 応援基金	計
令和6年度末現在高	982	626	872	3,122	5,602
令和5年度末現在高	1,004	725	841	3,457	6,027
(増減額)	▲22	▲99	31	▲335	▲425

⇒経常経費に財源不足が生じているため、今後の基金減少が見込まれる。

(参考) 主要基金と町債現在高の推移

①基金現在高の推移(現金ベース)

(単位：百万円)

元年度末	2年度末	3年度末	4年度末	5年度末	6年度末
5,359	5,291	5,903	6,837	6,027	5,602

②町債現在高の推移

(単位：百万円)

元年度末	2年度末	3年度末	4年度末	5年度末	6年度末
8,843	9,175	9,574	9,579	10,062	9,707